

## 水を貯める、増やす

香川県の各地は古くから水不足に悩まされてきました。かんがい用水を確保するため、人々はため池に水を貯めたり、ため池の貯水量を増やすなどして干害に対応してきました。東かがわ市の川股池と三豊市の逆瀬池の例をご紹介します。

### ■川股池（香川県東かがわ市）

引田町（現東かがわ市）は古来かんがい水に恵まれない干害常襲地でした。昭和 13 年に現在の川股池の下流にある小路池（当時は川股池と呼ばれていた）が完成しましたが、完成直後から漏水が著しく、下流住民から苦情が続出したため貯水できず、長い間ため池の機能が果たせずにいました。昭和 30 年に小路池上流での貯水ダム建設が農林省から許可され、県営かんがい排水事業として着手し、昭和 38 年 3 月に川股ダムが完成しました。その間、引田町は川股ダム建設推進協議会を設け、関係土地改良区とともに、県などと連絡して用地買収、予算の獲得、工事促進のための努力を続けました。堰堤にある川股ダム建設の碑には「もろもろのくるしみひめて美しく ダムは豊かに水をたたえり」と記されています。＜香川県農林部編「農林業の石碑」1981 年、香川県HP＞



川股池



川股ダム建設の碑



(地理院地図に加筆)

### ■逆瀬池（香川県三豊市）

昔から三豊平野は水が乏しく、ため池が多く築造されてきましたが、どのため池も集水面積が狭く、水不足は解消されませんでした。昭和 13 年に河内村・辻村（いずれも現三豊市）と豊田村（現観音寺市）の 3 村の人たちは、河内の逆瀬池の貯水量を増やし、その水を河内川を通して中部用水という新しい用水路に取り入れる計画を立てました。昭和 17 年に県営事業として農林省の認可が得られ着工されましたが、戦争のため一時中止し、昭和 23 年に工事が再開、昭和 30 年に完成しました。これにより、逆瀬池の貯水量は 10 万  $\text{m}^3$  から 53 万  $\text{m}^3$  に増大し、その水が河内川から小原池までの幹線水路（約 3,600m）と小原池からの用水路（約 2,500m）を通じて各地に供給されるようになりました。観音寺市池之尻町の萬代豊年の碑には中部用水ができて、水の心配がなくなったことが刻まれています。＜観音寺のすがた編集委員会編「観音寺のすがた」2007 年、山本町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちのまち山本」1997 年、香川県HPなど＞



逆瀬池



萬代豊年の碑



(地理院地図に加筆)